

**令和4年度 第2回 那須野が原開拓日本遺産活用推進協議会 総会  
(要旨)**

- **日 時** 令和5年2月3日(金) 午後1時30分から午後2時15分まで
- **場 所** 那須塩原市役所西那須野庁舎 301～303 会議室、Zoom
- **出席者** 会員17名、事務局11名
- **欠席者** 会員3名

**1. 開 会**  
**2. あいさつ**  
**3. 協議事項**

**(1) 令和4年度の事業経過について【資料 1-1、1-2、1-3】**

- 資料に基づき事務局から説明

**【質疑】**

木村委員： 1～3冊の配布だと埋もれてしまうのではないかと危惧する。郷土教育は重要だと考えている。那須野が原のポテンシャルを子どもたちにも伝え、ここで育ったことを誇れるようにするためにも、副読本などの活用にもつなげて、継続した活用をしていただきたい。

渡辺会長： 電子データ版があるので電子データでも普及できる。GIGA スクールで絡めてできれば良いと思う。

月井委員： 学校現場では教科書そのものをデジタル教科書へと移行していく真っ只中である。ストーリーブックは電子データ版があるので、子どもたちが希望に応じて見ることが可能である。子どもたちの目に触れるように努力していく。

木村委員： 将来の那須野が原に生きていく子どもたちに向けて、副読本もブラッシュアップが必要だと思う。

⇒ 承認

**(2) 令和5年度の事業計画(案)及び収支予算(案)について【資料 2-1、2-2、2-3】**

- 資料に基づき事務局から説明

**【質疑】**※質疑なし。

⇒ 承認

### (3) その他【資料なし】

- 令和5年度の総会について（事務局連絡）

- ・第1回 日程：令和5年7月14日（金） 午後3時30分から  
場所：那須塩原市役所西那須野庁舎 ※状況によりオンライン会議
- ・第2回 日程：令和6年1月30日（火） 午前10時30分から  
場所：那須塩原市役所西那須野庁舎 ※状況によりオンライン会議

- 栃木県誕生150周年協賛事業について（事務局連絡）

令和5年度は栃木県誕生150周年ということで、協賛できるイベント等がないか、県から照会があった。本協議会としては、予定している事業の中で、できる範囲で協力したいと考えている。

- PRグッズのビニールバックについて（星野専務理事）

星野専務理事： ビニールバックの素材はバイオマスか、化石由来か。

事務局： バイオマスではない。

星野専務理事： 那須塩原市は地域全体でカーボンオフセットを考えているので、その辺の配慮があるとい  
ただく方も意識が高まると思う。よろしくお願ひしたい。

渡辺会長： 国体などではバイオマス由来のものにしてしたが、こちらについては配慮がいたらなかった。  
これに限らず、市や那須野が原で事業を行う際はカーボンニュートラルに取り組んでいるの  
で、こういった分野でもノベルティなど作る際は、なるべくバイオマスや地域の素材を活かした  
ものにするよう配慮していきたい。

## 4. その他

木村委員： 日本遺産は評価を受けるものなのでしっかりやっていると、今後落とされてしまう。

我々自身の啓発、啓蒙活動が必要だと思う。生涯学習の中で、4市町がそれぞれに日本遺産をテーマにして行政活動、地域活動に連動していくような展開をして、地に足ついた活動にしていくような方向性にする必要だと思う。時折、地名や先祖のことなどを聞かれるが、コロナもあり自分を見つめなおす時期になっているなど感じる。今がチャンスなので、それぞれの分野でこれからの活性化をと思う。

渡辺会長： コロナ初期の頃に那須塩原市のキャッシュバックキャンペーンで、地元の旅館に泊まったら値引きをするというものだが、かなり人気であった。利用した市民のうち、4割が初めて地元の旅館に泊まったという結果がでた。自分たちの地域の再発見につながったのではない

かと思う。

日本遺産は、総合評価や継続審査を受けている地域があると思うが、現時点で再認定や評価などどうなっているか。

事務局：既に2度審査が実施されており、1年目の審査(平成27年度認定地域)の際に4件が「認定地域(条件付き)」になっている。これとは別に、新たに日本遺産の認定を目指し、立候補した「候補地域」というものがあり、条件付き地域と候補地域は3年間で競い合い、上位の地域が日本遺産となることになっている。逆に評価が高く、重点支援地域になっているところもある。総括評価・継続審査の進め方については、今後変更になることもあるかもしれないが、現段階では、3年間の計画を策定し、その後、また6年間の計画を策定することになっている。2年目の審査(平成28年度認定地域)では、3件が条件付きとなっている。立候補地はなかった。

渡辺会長：他の地域と比べて、これまでの内容で通りそうか。

事務局：3つの目標のうち、観光客入込数が達成できそうにないが、コロナもあるので、審査で考慮されるかとは思う。地域の文化に誇りを感じる住民の割合と、日本遺産関連で開発された商品・サービス数については目標を達成できる見込みである。後は、これまでに行ってきた事業の内容等の状況報告について、審査される方々がどう判断されるか、新たな3年間の計画をどう捉えていただけるかだと思う。

計画策定の時期については、まだ正式な情報はないが、例年を見ていると、おそらく来年度の12月くらいに連絡があり、1月～3月に評価・計画を作成、4月～5月に審査、6月に結果がくるというようなスケジュールになるかと思う。

木村委員：文化庁は、文化財を保存するだけでなく活用していくように、文化財保存活用地域計画の作成を推進している。文化財保存活用地域計画を作成したところに優先的に補助を出したりしている。大田原市と那須塩原市は作成したので、那須町、矢板市にも作成いただき、文化財保存活用地域計画という形で地域の方々に、文化財の大切さと、守り、継続していくこと、それから意識の向上に日本遺産を活用していくのも大事だと思う。複合的につなげていくことで、国の評価を受けていくという形も必要かと思う。

## 5. 閉 会